

The background of the slide is white with a decorative pattern of various-sized circles in blue, red, black, and grey. A horizontal blue bar with a thin red line above it spans the width of the slide, containing the main title and date.

個人投資家向け会社説明資料

2023年11月2日現在

証券コード：4202



「溶かす技術」で エコロジーとエコノミーを両立させた 循環型社会の構築に貢献

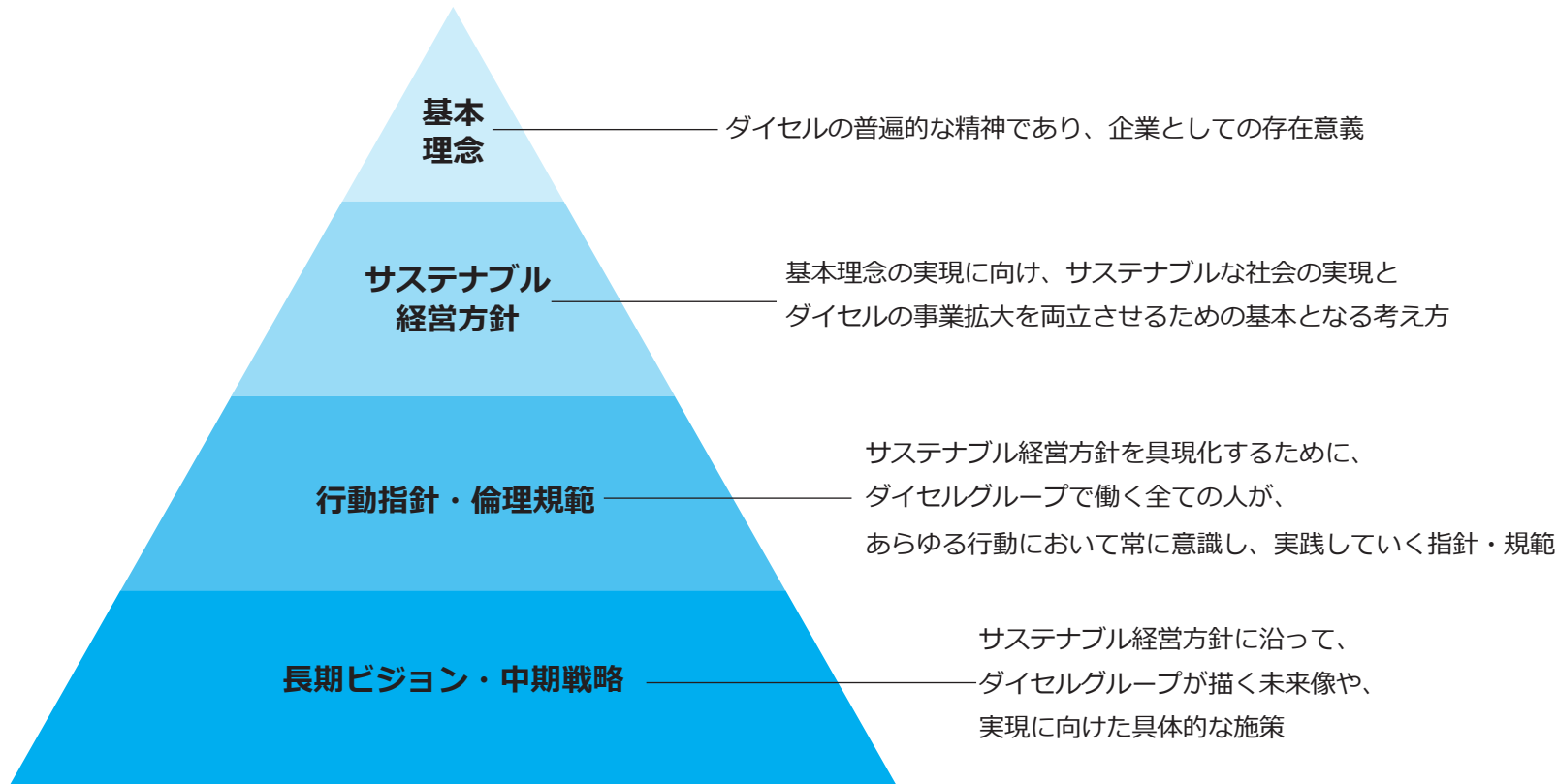
代表取締役社長

小河 義美

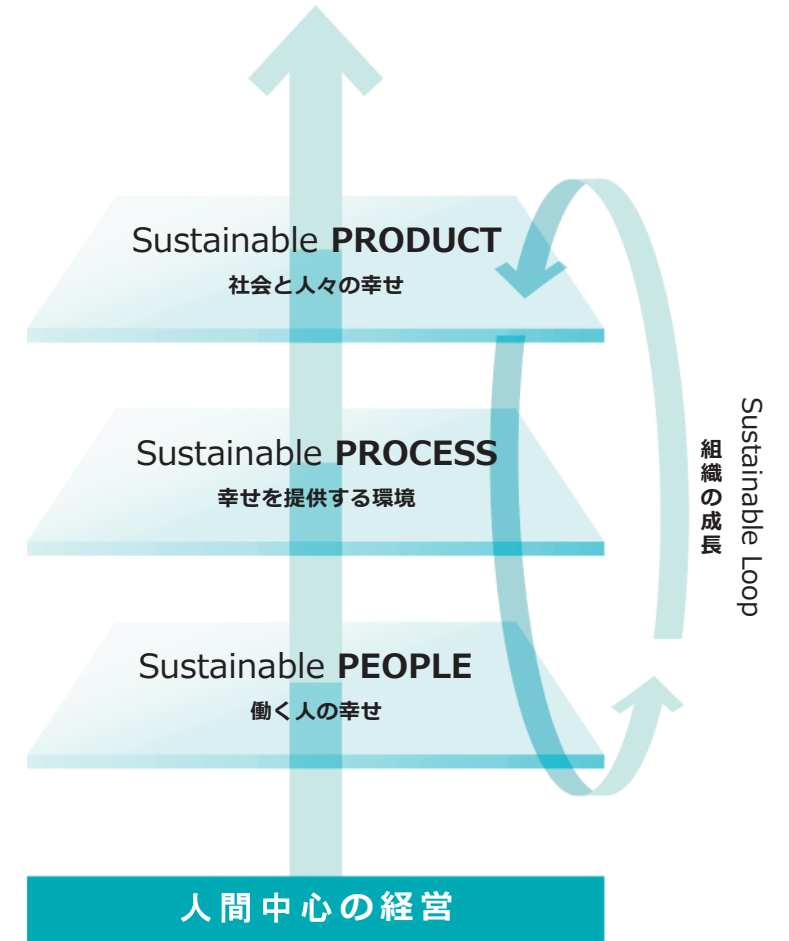
目次

イントロダクション	2
基本理念・経営方針	3
ダイセルの「愛せる未来」の創造へ	4
ダイセルとは	5
ダイセルグループの強み	6
製品・技術系譜から見たダイセルグループ	7
ダイセルグループの事業	8
長期VISION・中期戦略	14
株主還元	24
参考資料	25
会社概要	34

ダイセルグループの理念体系



サステナブル経営方針



ダイセルの「愛せる未来」の創造へ

設立当時から他者との共存精神を大切にしてきたダイセルは、人々の暮らしを豊かにすることを目指して、100年以上も社会に役立つ素材を開発・提供してきました。私たちの社会や環境をとりまく状況は、大きな変化を迎えています。そういった中でも、ダイセルは循環型社会構築に向けて日々研究開発を行い、同じ志を抱く仲間とともに価値の共創を広げています。これからもダイセルは無限に広がる化学の可能性を信じ、世界に誇れるモノづくりを次の時代に繋ぐため、勇気を持って変革に挑戦し続けます。

愛せる未来を創造する

ナノの世界から人々を幸福にする未来、創造中

ナノダイヤソリューション

例えば「太陽光超還元」
カーボンネガティブを実現する技術

植物資源がAIを助ける未来、創造中

ナノひっつき虫™

古代より私たちの生活に深く関わるセルロース、
半導体製造に新しい可能性を見つけろ

希少金属を無駄なく循環する未来、創造中

希少金属の循環

レアメタルを環境負荷なくリサイクルする技術

薬液デリバリーを適切にコントロールする未来、創造中

アクトランザ™ ラボ

薬液が皮膚を透り、狙った細胞内に届く、
革新的ドラッグ・デリバリー・システム
※動物実験用

人も海も美しくいられる未来、創造中

BELLOCEA® S7

化粧品になめらかさとしっとり感を与える
球状粒子を生分解性素材で

巨大化学工場がデスクトップサイズになる未来、創造中

マイクロプラント

究極のエネルギーレス工場を実現する技術

資源をサステナブルに循環する未来、創造中

森林化学

木材を環境負荷なく溶解する技術

瞬時の危険から命を守る安心な未来、創造中

DAISI

ただ一度だけ、瞬時に確実に動力を生み出す「ワンタイムエナジー」

薬もサプリも飲みやすく、健康をサポートする未来、創造中

医薬品・食品用賦形剤

水に触れると錠剤が崩れる特徴を持った
医薬品・食品用の賦形剤

海洋プラスチック問題がなくなる未来、創造中

CAFBL®

海洋分解性に優れた環境に優しい天然由来の酢酸セルロース

愛せる未来、創造中。 | 株式会社ダイセル (daicel.com)

ダイセルとは



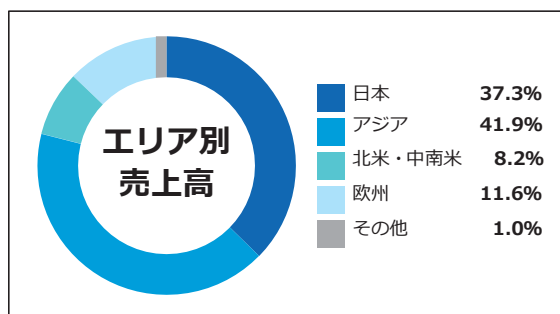
グループの成長を加速させ、企業価値を高めていくには、売上高・利益の成長とともに資本効率・資産効率を高め、健全なバランスシートを維持していくことも大切です。現在は、基盤事業における収益力向上と成長分野の拡販による増収・増益を維持しながら、EBITDAのさらなる増加、そして2026年度にはROIC 10%達成を目指しています。また、株主還元についても、総還元性向40%以上をベースに、さらなる向上を図っていきます。現在は、世界14の国・地域に76社、連結従業員数は1万人規模で事業を展開しつつ、持続可能な社会づくりに貢献し続けています。

2023年3月期

連結売上高 **5,380**億円

連結営業利益 **475**億円

EBITDA **791**億円



ダイセルグループ 連結海外売上高 **56.4%**
グループ企業数 **14**の国と地域に **76**社
グループ従業員数 **11,207**人

2023年3月31日現在



ダイセルグループの強み

セルロイドは世界で初めて工業化されたプラスチックで、日本では1900年代から原料の国産化が始まりました。その後、国内セルロイドメーカー8社の合併により、1919年に誕生したのが、大日本セルロイド株式会社（今日のダイセル）です。ダイセルは、時代のニーズに合わせた製品開発を続け、人々の暮らしに役立つ様々な素材を提供しています。また、化学プラントの画期的な生産革新手法や省エネ・省資源につながる生産技術の開発にも取り組んでいます。私たちダイセルは、世界各地に広がるグループ企業各社とともに、化学産業におけるエコノミーとエコロジーの調和を図りながら、これからも人々に幸福をもたらす企業であり続けたいと考えています。

ダイセルの3つの強み

1 バイオマス化学の パイオニア

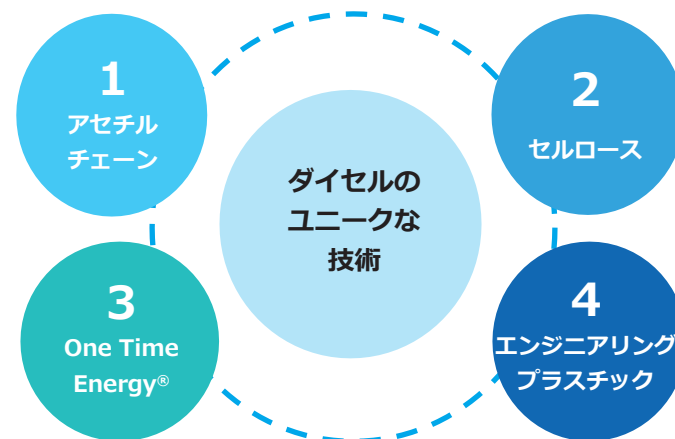
1919年の設立以来、ダイセルは植物由来の原料から化学品を作るバイオマス化学に取り組んできました。綿花やクスノキの一部を原料としたセルロイド事業から出発し、その易燃性を克服した酢酸セルロースの製品化を経て、現在は様々な市場分野にバイオマス製品を供給し続けています。



酢酸セルロース

2 創業以来培った ユニークな技術

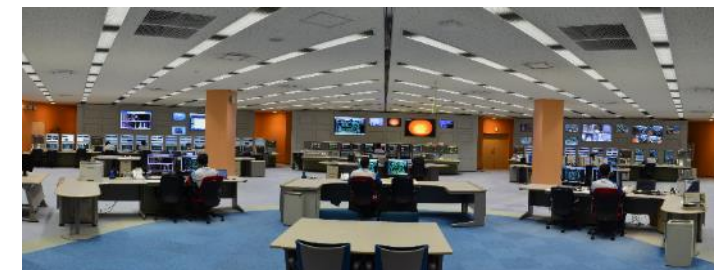
酢酸誘導体を製造するアセチルチェーンの構築から、世界的シェアを持つ高機能エンジニアリングプラスチックの製造まで、革新的な技術でプロダクトを世に送り出しています。



3 ダイセル式生産革新による 生産効率の追求

当社の化学メーカーとしてのモノづくりの基盤を支えるのが、ダイセル式生産革新です。熟練オペレータが持つ約840万の工場運転に関するノウハウを可視化し、運転支援システムに組み込むことで、生産効率を約3倍※に向上させました。2020年には、さらにAIを用いて進化させた「自律型生産システム」の開発に成功。安全・品質はもちろん、エネルギー使用の最適化でCO₂排出量の削減にも寄与するなど、究極の生産効率を追求しています。

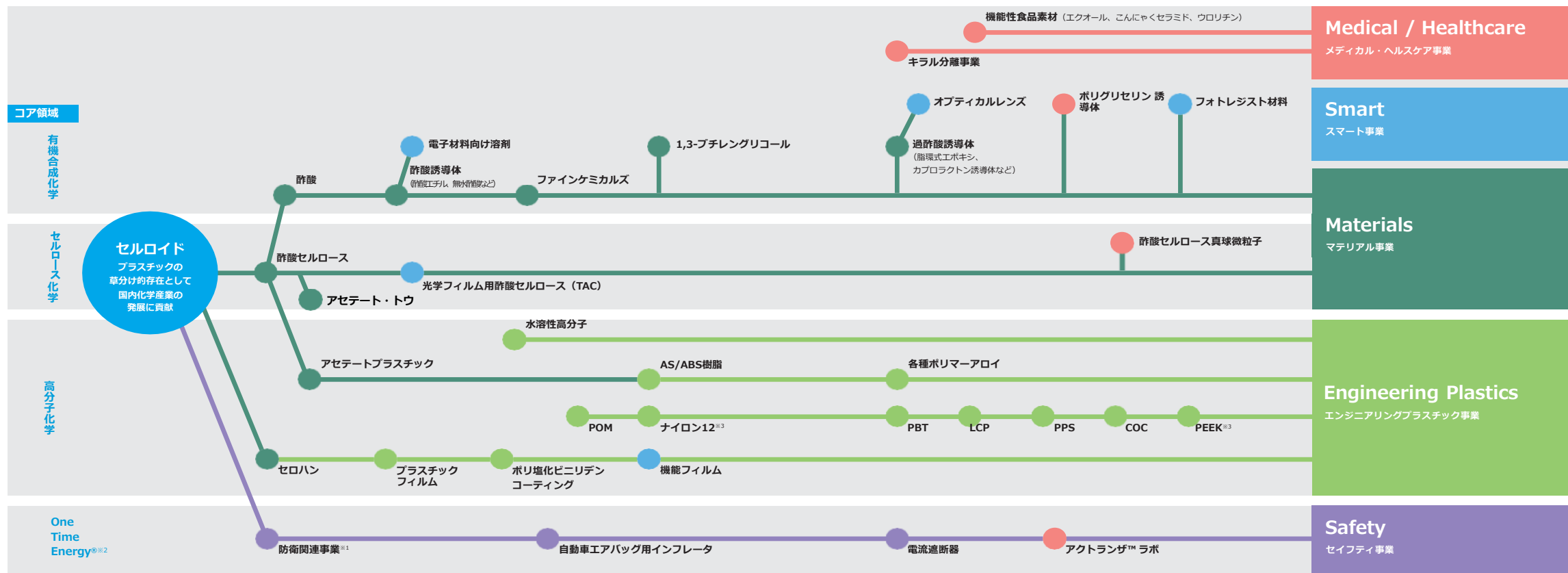
※ダイセル網干工場での実績



IPCコントロールルーム

製品・技術系譜から見たダイセルグループ

セルロイド事業を起点とするダイセルは、その蓄積した技術をベースに、4つの新たな技術領域を展開してきました。天然素材を原料とする「セルロース化学」を始めとし、強固なアセチルチェーンを確立した「有機合成化学」、多様な樹脂の研究により培った「高分子化学」、火工品技術から進化した「One Time Energy®」は、ダイセルグループの事業領域を支えるコア技術として、現代の多様化する社会ニーズに貢献し続けています。



※1 事業撤退済み ※2 インフレーター製造で培った火工品技術を「安全、確実、瞬時に、一度だけ最適なエネルギーを生み出す、One Time Energy®」と定義しています。 ※3 ポリプラ・エポニック株式会社の製品

ダイセルグループの事業



2022年度連結売上高
5,380億円

Medical / Healthcare
メディカル・ヘルスケア事業

売上高 **166億円**
構成比率 **3.1%**

QOLが重視される社会に、安全で高品質なヘルスケア
素材や医薬品開発に関わるソリューションを提供

Smart
スマート事業

売上高 **296億円**
構成比率 **5.5%**

人々の暮らしの快適さや技術革新を支える
電子材料市場に新たなソリューションを提供

Safety
セイフティ事業

売上高 **840億円**
構成比率 **15.6%**

高いグローバルシェアを誇るエアバッグ用
インフレーター事業で培ったOne Time Energy®の技術で
幅広い産業に安全・安心を提供

Materials
マテリアル事業

売上高 **1,608億円**
構成比率 **29.9%**

アセチルチェーンを主軸とした多彩な製品群、
ユニークな製法を強みに幅広い産業に価値を提供

Engineering Plastics
エンジニアリングプラスチック事業

売上高 **2,381億円**
構成比率 **44.2%**

エンジニアリングプラスチックのパイオニアとして
培った技術力で、幅広い産業に高機能で
付加価値の高いソリューションを提供

キラルカラム



光学異性を分離するクロマトグラフィー用カラム。薬として有効な成分を分離し、安全な医薬品の提供に貢献。

BELLOCEA®
(化粧品用の真珠状酢酸セルロース)



海洋生分解性を持ち、化粧品業界の海洋プラスチックごみ問題解決への貢献に期待。

**光学フィルム用
酢酸セルロース (TAC)**



優れた光学特性や透明性、平滑性を活かし液晶ディスプレイの偏光板保護フィルムに展開。

電子材料向け溶剤



高純度、低メタル溶剤の生産・品質管理体制を有し、半導体プロセス用途で高い実績。

**自動車エアバッグ用
インフレーター**



自動車エアバッグシステムのキーパーツを供給し、衝突事故時の乗員の安全確保に貢献。

電流遮断器



インフレーター製造で培ったOne Time Energy®技術を自動車以外の産業用途に展開し、暮らしの安全を支える。

酢酸



国内唯一の酢酸メーカー。酢酸は環境にやさしいプラスチック製品の原料でもあり、環境対応型素材として、ソリューションを提供。

脂環式エポキシ



世界唯一の製法で不純物が少なく、塩素を含まないため、品質への信頼性や耐久性が求められる電材用途で多く採用され、EV向けでも注目度大。

ポリアセタール (POM)



自動車、電子・電気、産業機器向けなどの幅広い用途に使用され、各時代の主要産業の発展に貢献。

液晶ポリマー (LCP)



タブレット端末やスマートフォンなど、小型化が進む最新IT機器の超小型精密コネクタに多く利用され、社会インフラを支える。

※その他セグメントの数値は売上高・構成比率に含まれていません。
また、2022年度の売上高は、化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル）のセグメント変更反映後のものです。

メディカル・ヘルスケア事業

主要な事業 → ライフサイエンス、ヘルスケア

ライフサイエンス事業では、医療分野において光学異性体を分離精製するキラルカラムの製造販売や受託分離サービスが、世界トップシェアを占めています。また、近年ではバイオ分野への事業拡大にも積極的に取り組んでいます。ヘルスケア事業（コスメ・健康食品）では、人々のQOL※向上への貢献を目指し、高品質な化粧品原料、天然由来の健康食品素材などを開発・販売しています。

※QOL-Quality of Lifeの略で、物質的な豊かさだけでなく、精神面も含めた生活の質のこと

2022年度実績

売上高 営業利益

166億円 13億円

■ダイセルの強み

1 ライフサイエンス：キラル分離技術の先端企業

キラル（光学異性体）カラムの工業化に世界で初めて成功。分離化の技術をさらに発展させるとともに、関連する製薬会社や研究者とのグローバルに広がるネットワークを構築。

2 ライフサイエンス：特徴ある医療系材料事業

針のない新規投薬デバイスや医療用材料として使われる高機能プラスチック製品と、グループ内にある医療関連事業間の連携により事業シナジーを推進。

3 ヘルスケア：ユニークな製造技術

コスメにおいては、副生物が少なく水溶性が高い無色・透明なポリグリセリンを製造可能。健康食品においては、独自の発酵技術を活用し、体内で作りやすい腸内代謝物をバイオ技術を用いて製造。

■主要な製品

ライフサイエンス事業

キラルカラム、キラル試薬、受託分離／分析サービス、遺伝子学術研究試薬、医療品添加剤、新薬投与デバイス



キラルカラム

ヘルスケア事業

- 化粧品原料
（ポリグリセリン誘導体、真球状酢酸セルロース「BELLOCEA®」など）
- 健康食品素材
（エクオール、こんにゃくセラミド、ウロリチンなど）



化粧品原料：真球状酢酸セルロースBELLOCEA®

スマート事業

主要な事業 → ディスプレイ/オプト、IC/半導体

ディスプレイ/オプト事業では、世界的なシェアを持つ光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）を製造・販売しています。これに加え、近年ではスマートフォン・タブレット・車載デバイスなどのディスプレイに最適な機能フィルムなどの製品を展開しています。IC/半導体事業では、半導体やディスプレイ製造工程で使用される高機能のフォトレジスト材料などを製造・販売しています。

2022年度実績

売上高 営業利益

296億円 ▲ 6億円

■ ダイセルの強み

1 市場ニーズに応えるマーケットイン型のソリューション

エレクトロニクス市場において、合成、配合、コーティングといった材料設計や生産技術により、素材からモジュールパーツまで顧客ニーズに応えるソリューションと価値を提供。

2 ディスプレイ/オプト：細やかな機能設計による顧客ニーズへの対応

TAC、機能フィルム、オプティカルレンズにおいて、顧客ニーズに応じた材料や処方による機能設計により、製品の特異性と価格競争力を両立。

3 IC/半導体：安定供給と高度化への対応

半導体業界の高い品質要求レベルに対応できる技術力と安定した供給能力を保有。顧客と密着した製品開発を可能とし、有機半導体のセンサーへの応用といった高度化する新たな要求にも対応。

■ 主要な製品

ディスプレイ/オプト事業

光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）
機能フィルム、オプティカルレンズ



光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）

IC/半導体事業

フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、導体インク、有機半導体デバイス



電子材料向け溶剤（半導体製造前工程イメージ図）

セイフティ事業

主要な事業 →モビリティ、インダストリー

自動車の衝突を感知してから数ミリ秒でエアバッグを膨らませ、乗員や歩行者の命を守る自動車エアバッグ用インフレーター（ガス発生装置）が、セイフティ事業の主力製品です。このインフレーターで培った安全機構を、One Time Energy®と呼称し、エアバッグ以外の用途にも展開しています。緊急時に安全かつ瞬時に高電圧・大電流を遮断する電流遮断器もその一例で、EV化やAIの普及などにより自動化が進む様々な産業への展開が期待されています。

2022年度実績

売上高 営業利益

840億円 5億円

■ダイセルの強み

1 長年蓄積したインフレーター技術

自動車エアバッグ用インフレーターを事業化した1988年より、ガス発生剤から一貫生産し、高い信頼性で人々の安全に貢献。

2 トヨタ生産方式×ダイセル式生産革新

ダイセル式生産革新の考え方をベースにトヨタ生産方式を応用し、高い品質と生産性を追求。

3 高度な統合管理（画像解析）システム

株式会社 日立製作所と共同開発した統合管理システムにより、シリアル単位の品質管理を実現。このシステムを標準装備としてグローバルに展開。高いレベルの品質管理をベースに、顧客との強固な信頼関係を構築。

■主要な製品

モビリティ事業

自動車エアバッグ用インフレーター



自動車エアバック用
インフレーター

インダストリー事業

電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器(PGG)



電流遮断器

マテリアル事業

主要な事業 → アセチル、ケミカル

多様な用途を持つ酢酸の国内唯一のメーカーとして、幅広い産業に様々な素材を提供しています。アセチル事業では、酢酸をはじめ酢酸を原料とする化学品や、木材や綿花から採れるセルロースを原料とした酢酸セルロース、これを紡糸したアセテート・トウを展開しています。ケミカル事業では、長年培った有機合成技術を基盤に、世界的にもユニークな反応技術による脂環式エポキシ、カプロラクトンなどの過酢酸誘導体など、様々な化学品を製造販売しています。

2022年度実績

売上高 営業利益

1,608億円 207億円

■ダイセルの強み

1 ダイセル式生産革新による最適なプラント運転

ダイセル式生産革新を進化させた「自律型生産システム」を構築。最適なプラント運転により、製造プロセスでの省エネ、GHG排出量削減、安定供給、コスト競争力アップを実現。

2 アセチル：強固なアセチルチェーンを構築

国内唯一の酢酸メーカーとして、酢酸や酢酸を原料とする誘導体の製造・販売。さらに、顧客や当社グループ工場で副生される酢酸を回収・精製・再利用する循環構造を確立するなど、強固なアセチルチェーンを構築。

3 ケミカル：世界シェアNo.1の脂環式エポキシ

世界唯一の製法による高品質な脂環式エポキシを製造。金属を腐食させる塩素を含まない製法により、高品質・高性能で、電子・電気材料やEVなどのモビリティ材料にも対応。

■主要な製品

アセチル事業

酢酸、酢酸誘導体（酢酸エチル、無水酢酸など）、酢酸セルロース、アセテート・トウ、ケテン誘導体、エチルアミン



アセテート・トウ

ケミカル事業

脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、1,3-ブチレングリコール（1,3-BG）



EVモーター向け
脂環式エポキシ（用途例）

エンジニアリングプラスチック事業

主要なグループ企業

→ポリプラスチック、ダイセルミライズ

ポリプラスチック社は、機械的強度、耐熱性、耐薬品性などの特殊な機能を持つエンブラ^{※1}分野のリーディングカンパニー、自動車の軽量化や電装化、電子機器の高性能化などに貢献しています。ダイセルミライズ社は、日用品から自動車まで多目的な用途を持つAS・ABS樹脂や、各種ポリマーアロイ、樹脂コンパウンド製品のほか、近年注目されるEV用の水溶性高分子(CMC^{※2}など)と、様々な商材を幅広い産業に展開しています。

※1 エンブラ…エンジニアリングプラスチック

※2 CMC (カルボキシメチルセルロースナトリウム) …天然素材であるセルロースを原料としたCMCダイセルは、ダイセル独自の技術で開発した水溶性高分子

2022年度実績

売上高

営業利益

2,381億円 253億円

■ダイセルの強み

1 ポリプラスチック：新しいアプリケーションの開発力

エンブラ業界のエキスパート集団として、時代と共に移り変わる主要産業（電機や自動車産業など）や社会ニーズに応えるアプリケーションを顧客とともに開発。グループ企業が持つ幅広い製品ラインナップを掛け合わせ、最適なソリューションを提供。

2 ポリプラスチック：主要地域に広がる技術ソリューション

日本・中国・台湾・タイ・米国・ドイツの主要地域にある各テクニカルソリューションセンターが相互に連携。素材の処方設計から成形加工支援まで、一貫したソリューションをグローバルに提供。

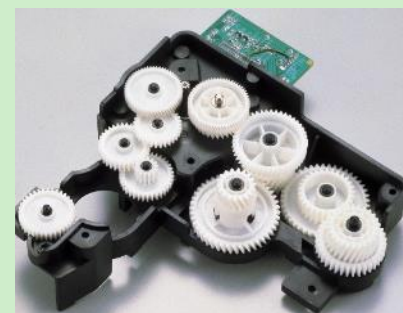
3 ダイセルミライズ：顧客ニーズに応じた柔軟な提案力

フレキシブルなベースレジンの選択とコンパウンド技術の組み合わせを提案するなど、顧客の多様なニーズにも対応。

■主要な製品

ポリプラスチック

ポリアセタール (POM)、ポリブチレン・テレフタレート (PBT)、ポリフェニレン・サルファイド (PPS)、液晶ポリマー (LCP)、環状オレフィン・コポリマー (COC)



ポリアセタール (POM)を用いたギヤ

ダイセルミライズ

AS樹脂、ABS樹脂、各種ポリマーアロイ、樹脂コンパウンド製品、水溶性高分子、包装用バリアフィルム



CMCを使ったリチウムイオン電池

長期VISION・中期戦略

長期ビジョン『DAICEL VISION 4.0』とそれに基づく中期戦略『Accelerate 2025』を策定し、実現に向けてダイセルグループは、サステナブルな社会と当社グループの事業成長の両立を目指し、歩みを進めています。この目標の達成には、大量生産を前提とする今までの社会システムからの脱却が求められ、それには4つの大きな構造転換（以下図）が必要になると考えています。こうした取り組みを通じて、私たちダイセルは、志を共にするパートナーの皆様と共に循環型社会の構築に貢献していきます。

長期ビジョン・中期戦略で掲げた、ダイセルが循環型社会構築に貢献するために実現する構造転換



新企業集団の形成

社会構造を変えていくためには、社会や環境のために新たな価値を共に創造できる集団「新企業集団」を形成することが不可欠です。私たちが手掛けるモノづくりは、最終製品に至る工程の一つにすぎず、その工程がいくつもつながりサプライチェーンを形成します。そこでつながる各社の得意分野を掛け合わせれば、一社が試行錯誤する以上に、効率的なモノづくりが可能になり、さらにより良い製品や環境にやさしい製造方法を生み出すことができます。こうした企業間による垂直のつながりに加えて、同業他社のような水平方向でもつながる新たな集団のことを「クロスバリューチェーン」と呼びます。以下の図は、このクロスバリューチェーンに至るまでの道のりを、ダイセル単体→ダイセルグループ→パートナーへと範囲を広げる3つのオペレーション（以下、OP）で段階的に示したものです。

成長と加速曲線

【実現のためのオペレーション】

Operation-I(OP-I) 原ダイセル

現状の事業に加え注力するドメインを含めた領域

- 事業構造の転換(事業の選択と集中⇒価値提供型組織へシフト)
- アセットライト化
- OP-II/IIIの成長を加速させる構造改革

Operation-II(OP-II) 新ダイセル

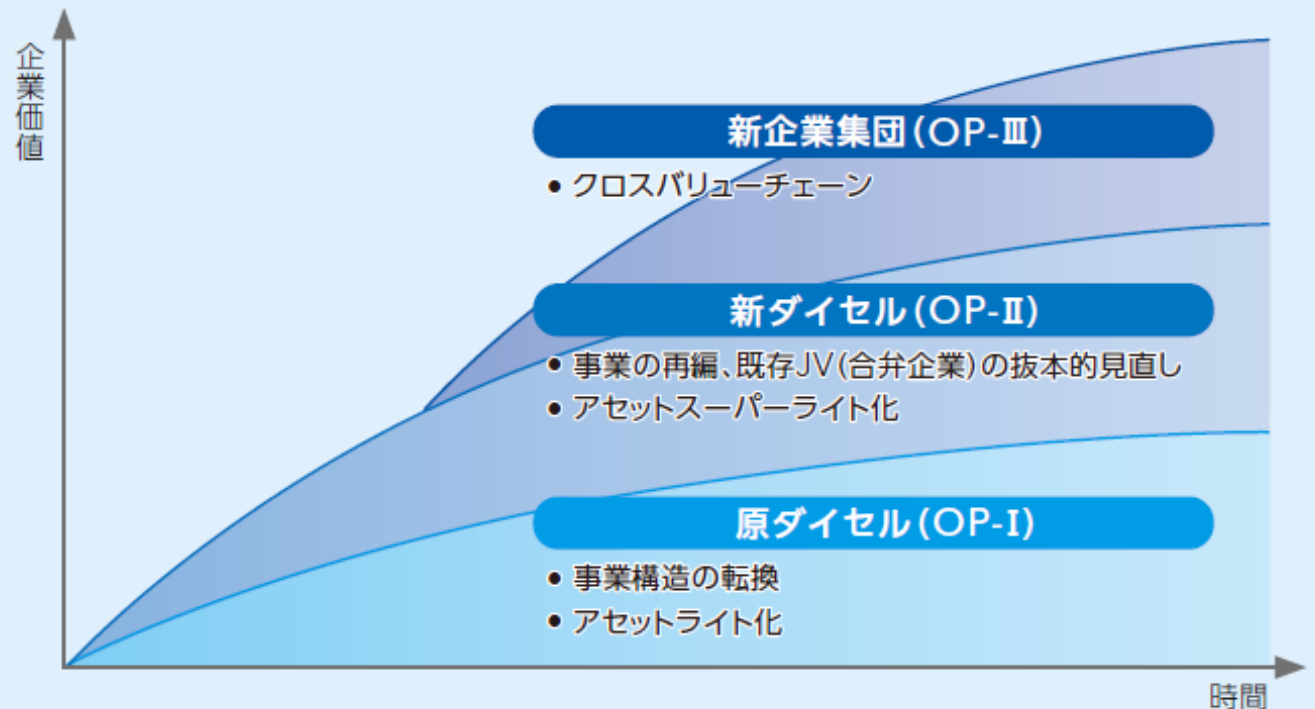
既存事業の周辺領域でM&Aや提携による領域拡大

- 事業再編、既存JVの抜本的見直し
- アセットスーパーライト化
- OP-IIIが狙える高付加価値企業

Operation-III(OP-III) 新企業集団

垂直統合型のサプライチェーンに水平方向の統合を視野に入れたクロスバリューチェーン

- M&Aにこだわらず、多様なつながりでNo.1サプライチェーンを構築



バイオマスバリューチェーン構想

国土の約7割が森林である日本。樹齢50年超の森林はCO₂を吸収せず、ほとんどが放置されています。当社は溶かすことが難しい木材を穏和な条件と環境負荷が少ない方法で溶かす技術を開発し、森の木を石油化学原料の代替として活用。CO₂を吸収しやすく、土壌の保水能力が高い森林に再生、産業資源を循環させる。それが、ダイセルの掲げる「バイオマスバリューチェーン（以下、BVC）構想」です。循環型の産業生態系をつくるこのビジョンの達成には、多くの方々からの賛同と共感、産業間の連携による共創が不可欠です。



林業再生による「森の復活」



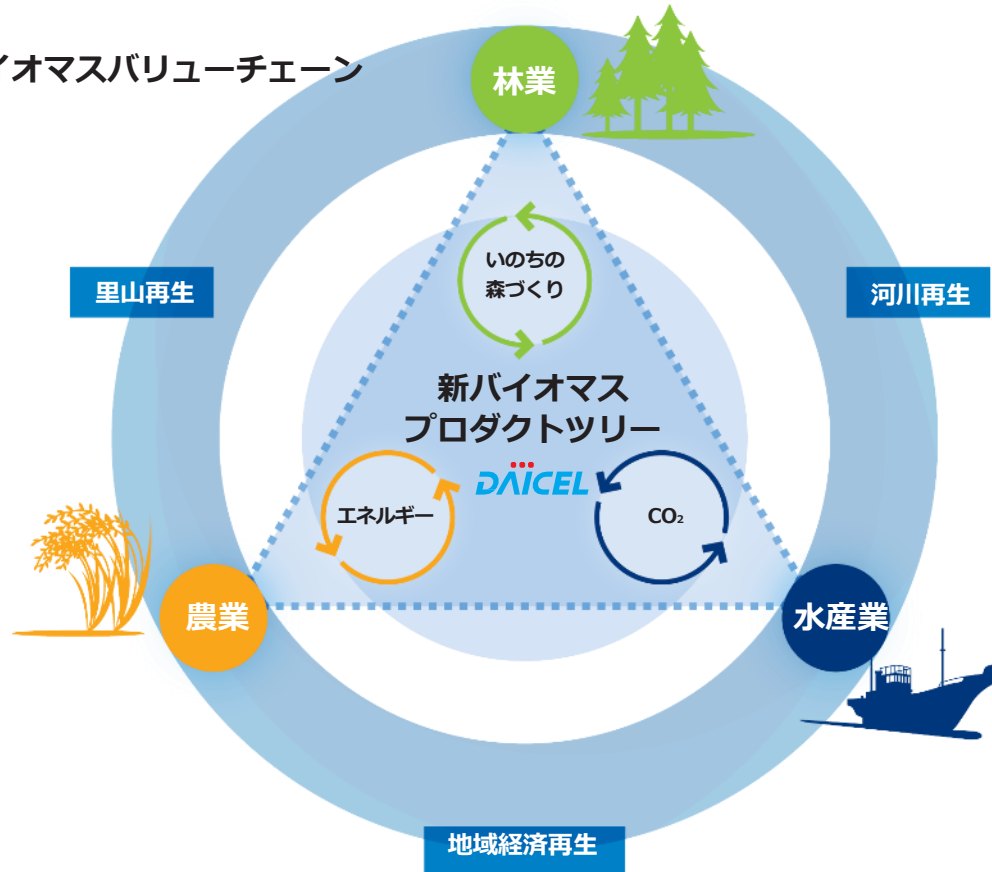
水質改善による「海洋資源の再生」



落葉広葉樹林帯の再生による「農地の肥沃化」

日本の未来のために、持続可能な循環型の産業生態系をつくる。新バイオマスプロダクトツリー

バイオマスバリューチェーン



BVC構想を実現する鍵となるのが、「新バイオマスプロダクトツリー」です。サステナブルなプロダクトを提供することは、素材メーカーの使命です。しかし、そのプロセスもサステナブルでなければなりません。一本の木を少しも無駄にしないことをテーマに、環境負荷を極力抑えながら、あらゆる素材を丸ごと加工する技術を開発し、天然素材でも高機能なプロダクトを生み出します。設立以来、バイオマス原料を扱ってきた当社だからこそ、カーボンニュートラルを実現し、化学の力でエコロジーとエコノミーを両立させながら循環型社会の構築を目指すことは、当然の成り行きです。

産学連携による共同技術開発

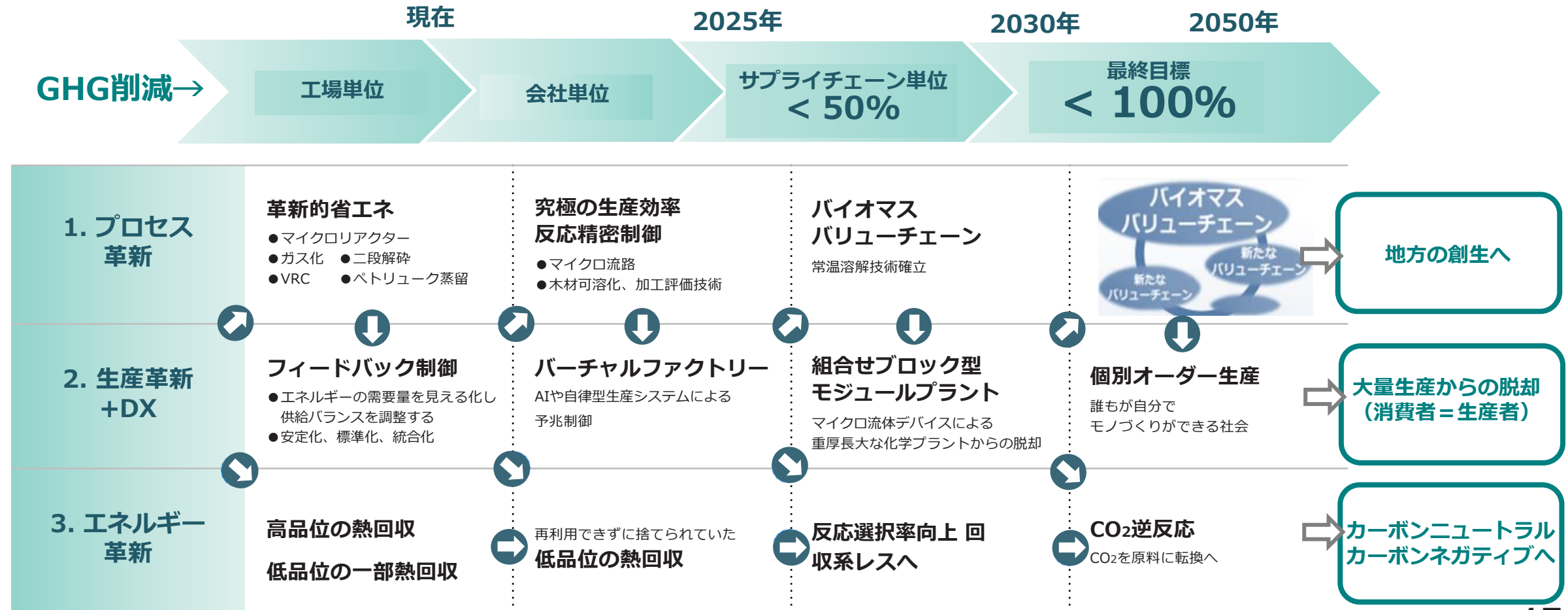
エコロジーとエコノミーの両立、新バイオマスプロダクトツリーの実現に向け大学との技術連携を進めています。たとえば、化学プラントの小型化の鍵となる「マイクロ流体デバイス」（P19参照）や、低コストかつ低環境負荷で木材を分解する「超穏和溶解」。

また、セルロースの可能性に着目し希少金属をセルロースで自在に回収する「選択的金属吸着」などの技術的成果は、都市鉱山や土壌汚染問題解決などの様々な分野での実用化が期待されています。

長期VISION・中期戦略

カーボンニュートラル・ネガティブ実現に向けて

ダイセルでは「2050年カーボンニュートラル」の達成に向け、脱炭素化への取り組みを推進しています。そのための施策として、プロセス・生産・エネルギーなどの分野における技術革新を相互に連動・促進させながら、当社の目指すバイオマスバリューチェーンを構築し、CO₂排出量が吸収量を下回る「カーボンネガティブ」を達成します。当社グループは、技術革新によりエコロジーとエコノミーの両立を実現していきます。



長期VISION・中期戦略

4つの注力領域による幸せの提供

ダイセルは社会と人々の幸せに貢献するモノづくりを目指しています。長期ビジョンでは、数ある社会課題の中から、今後ニーズが高まり、かつ、当社グループの強みを生かせるという観点から4つの注力領域「健康」「環境」「安全・安心」「便利・快適」と、それぞれの分野で注力する市場を定めています。

健康	環境	安全・安心	便利・快適
<p>医療材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DDS※/医療機器（アクトランザ） ● 医療機器/包装材料（エンジニアリングプラスチック） <p>バイタルセンサー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ナノダイヤモンド <p>腸内代謝物ベースの機能性食品素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エクオール ● ウロリチン ※DDS…ドラッグデリバリーシステム 	<p>環境配慮型ソリューションビジネス</p> <p>グリーンケミカル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存自社ケミカルチェーンの見直し ● 真球微粒子BELLOCEA® ● ファインセルロース ● 新規セルロース誘導體 	<p>電気自動車向け対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電流遮断器の量産化 ● インフレータ・電流遮断器の中国・欧米への拡販 <p>企業間連携によるセンシング技術との融合</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活における安全機器への参入 ● 転倒検知によるけが防止機器 	<p>加工技術の向上による新機能の開発・展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フィルム技術 ● コーティング技術 <p>無機有機複合電子材料</p> <p>電子デバイス用途素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有機半導体、銀ナノ ● オプティカルレンズなど
機能の意識によって加速する新事業化			
<p>新規投与デバイス アクトランザ™ ラボ</p> 	<p>ファインセルロース 希少金属回収</p>   <p>2023/5 G7広島サミットへ海洋生分解性酢酸セルロース樹脂カトラーを提供</p> <p>燃焼させずに金を回収できる分離膜を開発</p>	<p>EV用電流遮断器</p>  <p>欧州顧客向けを受注 2024年夏上市予定</p>	<p>パワーエレクトロニクス 半導体マスキング</p>   <p>Si含有量増加によるコストダウンと性能向上を達成</p> <p>半導体オブザイヤー2023 優秀賞受賞 (半導体電子材料部門)</p>
<p>まずは、日本・欧米で医療機器として事業展開を目指す</p>	<p>2031/3 売上ターゲット400億円超</p>	<p>2031/3 売上ターゲット400億円超</p>	<p>2031/3 売上ターゲット500億円超</p>

Topic 1 エコロジーとエコノミーの両立

— 大量生産・消費から個別オーダー・個人生産へ —

環境にやさしいプロセスで作る環境にやさしい製品を目指す

ダイセル独自の溶かす技術を化学プラントに応用したのが「マイクロ流体デバイス」です。マイクロ流体デバイスでは、不純物の発生が抑えられ、内臓する流路の精密なコントロールが可能になりました。これにより、設備コストの圧縮だけでなく、さらなる省エネ、省スペース、省資源化が見込まれます。

個人や家庭、地域単位でモノづくりの楽しさが享受できる社会へ

現在の化学プラント	エネルギー多消費大量生産 重厚長大な設備（大規模精製工程） 温度・濃度 分布大 目的のモノだけを作れない（低効率）	マイクロ流体デバイス	必要なときに必要な場所で生産 小型・卓上化（精製工程不要） 温度・濃度 分布極小化 目的のモノだけを作る（理想的な反応）
------------------	--	-------------------	---



Topic 2 新バイオマスプロダクトツリー実現に向けた取り組み

CO₂を資源に変える「ナノダイヤソリューション」と「溶かす技術」で得られる新素材

世界初、「太陽光」でCO₂を半永久的に分解する技術

ダイセルは、エアバッグ用インフレータの製造技術で培った爆轟技術を用いて、極めて高効率にナノダイヤを生成できる技術を獲得し、その応用開発を進めることで、太陽光だけでCO₂を分解する技術を確立しました。CO₂分解の際、大量の電力を使わず、太陽光を照射するだけで周囲の空間に生成される水和電子によって、高効率でCO₂を一酸化炭素と酸素に分解し続けられることも実証しています。ナノダイヤは硬く、化学的な安定性があり、いかなる酸やアルカリとも反応しない特性を持つ、3～5ナノメートルの超極小微粒子で、その反応は半永久的に続きます。

新バイオマスプロダクトツリーの鍵となる技術

これまで、木材よりも石油樹脂が選ばれてきたのは、液体の石油は固体の木より溶けやすく、様々な反応物を容易に作れるためでした。この課題を乗り越えるべく、当社は大学との共同研究を通じて、より少ないエネルギーで「木材を溶かす」技術開発に努めてきました。確立すれば、広範な分野で新たなバイオマス製品群が創出され、石油化学製品の代替や補完の可能性が見えてきます。

● 開発事例（木材から生まれた新素材MoCA ※）

木材に含まれるリグニンなどを選択的に溶解し、セルロースを分離する技術を確立することで、新素材MoCAの抽出に成功しました。



木粉



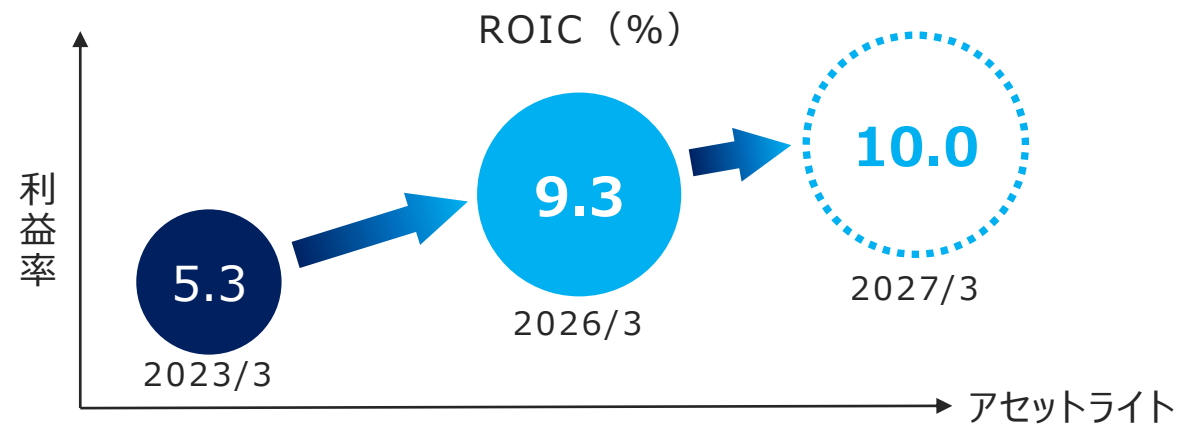
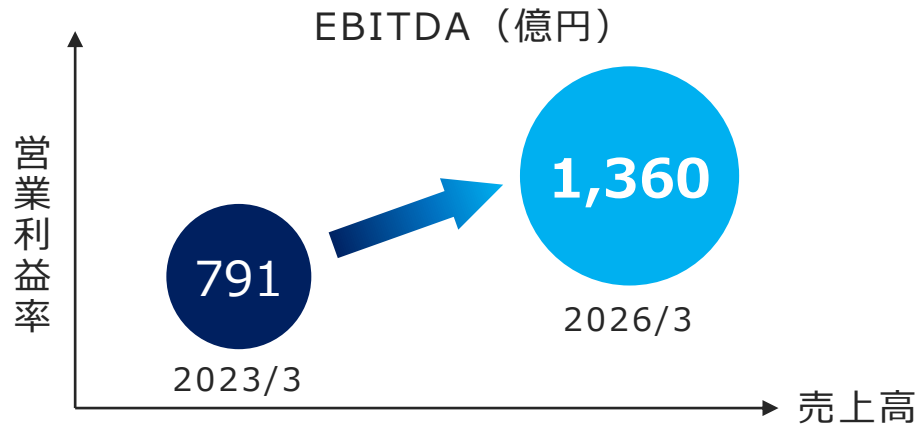
木粉から分離した新素材MoCA

※Molecular Cellulose Assembly：分子性セルロース集合体

長期VISION・中期戦略

業績および経営指標ターゲット

- 基盤事業の収益力向上と成長分野の拡販により増益基調を維持
- EBITDAのさらなる向上
- バランスシート拡大を抑制し、2027年3月期にはROIC 10%を目指す



単位：億円	2023/3	2026/3
売上高	5,380	6,600
営業利益	475	820
営業利益率	8.8%	12.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	407	580

単位：億円	2023/3	2026/3
EBITDA	791	1,360
ROE	14.3%	17.1%
ROIC	5.3%	9.3%
ROA	5.6%	7.7%
CCC	163日	125日

長期VISION・中期戦略 バランスシートイメージ

- 成長投資進捗により固定資産は増加
- 販売増に伴う運転資産増加は極力抑制
- 政策保有株式の削減加速等により資金効率向上

2023/3末 実績 単位：億円

資産		負債・資本	
流動資産 4,066 <small>現預金 935 運転資産 2,787</small>		負債 4,552 <small>有利子負債 3,220</small>	
固定資産 3,001 <small>政策保有株式 589</small>		純資産 3,104	
7,656		7,656	

2026/3末 ターゲット 単位：億円

資産		負債・資本	
流動資産 3,700 <small>現預金 600 運転資産 2,800</small>		負債 3,800 <small>有利子負債 2,400</small>	
固定資産 3,500 <small>政策保有株式 200</small>		純資産 3,600	
7,400		7,400	

長期VISION・中期戦略

キャッシュアロケーション

- 収益力強化に加え、CCC※削減(目標120日台)により資金創出力を向上
- 増加するキャッシュインを成長投資や株主還元を活用
- ➔ 利益水準の上昇およびEPS※の更なる向上
- インオーガニックな成長投資にも柔軟に対応

キャッシュイン (2024/3期以降3年累計) 単位：億円

営業CF	2,876
キャッシュ	2023年3月末 935
	政策保有株式売却 389
負債調達	0~

配分可能総額
4,200~

キャッシュアウト (2024/3期以降3年累計) 単位：億円

成長投資	1,900~
株主還元	~850
負債返済	~850
キャッシュ	600

※CCC=キャッシュコンバージョンサイクル
※EPS=一株当たり利益

■ 株主還元方針

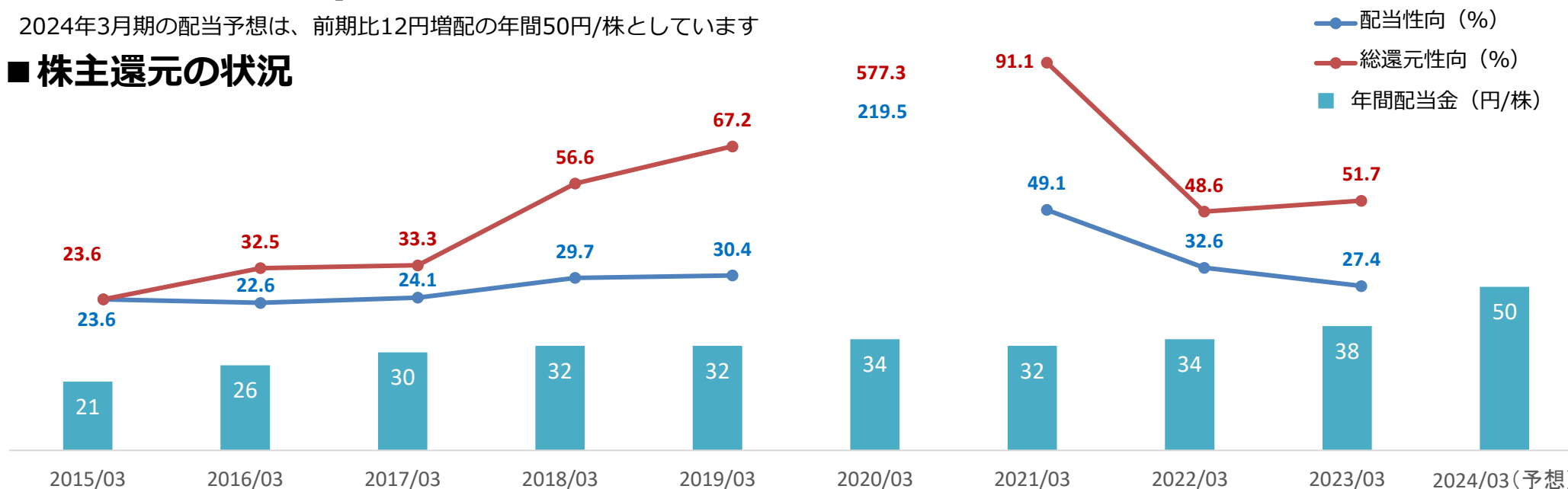
中期戦略発表時の1株あたり配当額32円を下限とし、機動的な自己株式取得も視野に入れます。

各年度の「**株主総還元性向40%以上**」をターゲットとする。

中期戦略「Accelerate 2025」における株主還元方針

2024年3月期の配当予想は、前期比12円増配の年間50円/株としています

■ 株主還元の状況

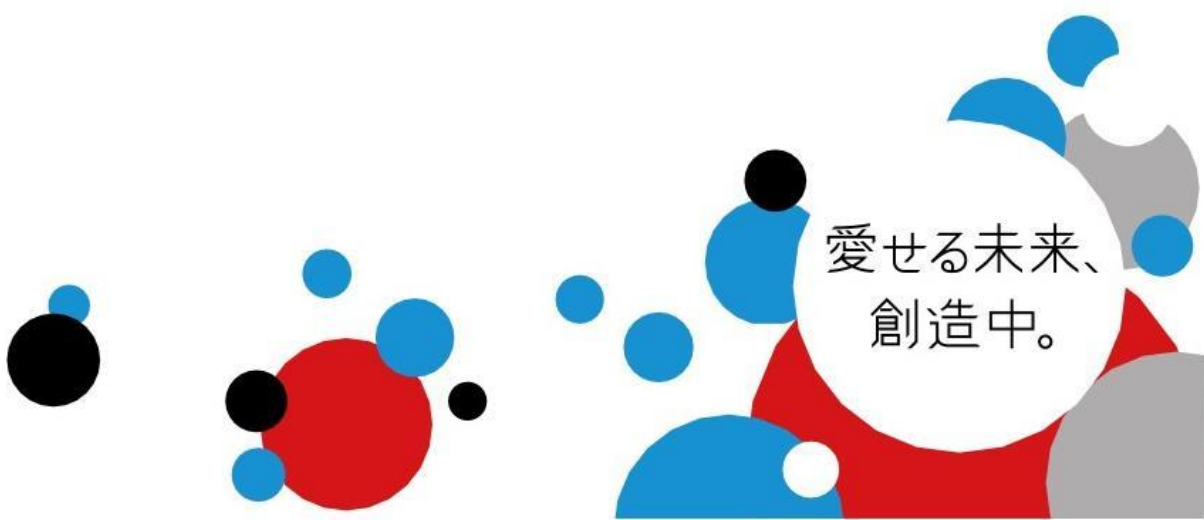


※記念配当2円

■ 最近の自己株式の状況

- 2020年3月期 約178億円の自己株式取得を実施、1,600万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 4.82%）
- 2021年3月期 約83億円の自己株式取得を実施、1,300万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 4.11%）
- 2022年3月期 約50億円の自己株式取得を実施
- 2023年3月期 約100億円の自己株式取得を実施、1,600万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 5.28%）
- 2024年3月期 約150億円の自己株式取得の実施を決定

参考資料

A decorative graphic in the bottom right corner consisting of several overlapping circles in blue, red, black, and grey. A white circle is positioned in the center of the graphic, containing the Japanese text.

愛せる未来、
創造中。

連結貸借対照表

(単位：億円)

		2022年 3月末	2023年 3月末	増減
流動資産		3,602	4,066	+464
	現預金及び有価証券	905	938	+33
	受取手形及び売掛金	1,026	1,015	△ 10
	棚卸資産	1,420	1,772	+352
	その他	252	341	+89
固定資産		3,386	3,590	+204
	有形固定資産	2,298	2,561	+263
	無形固定資産	101	112	+11
	投資その他資産	987	917	△ 70
資産合計		6,988	7,656	+668
負債		4,193	4,552	+359
	有利子負債	2,836	3,220	+384
	その他	1,357	1,332	△ 25
純資産		2,795	3,104	+309
負債純資産 合計		6,988	7,656	+668

連結キャッシュ・フロー計算書

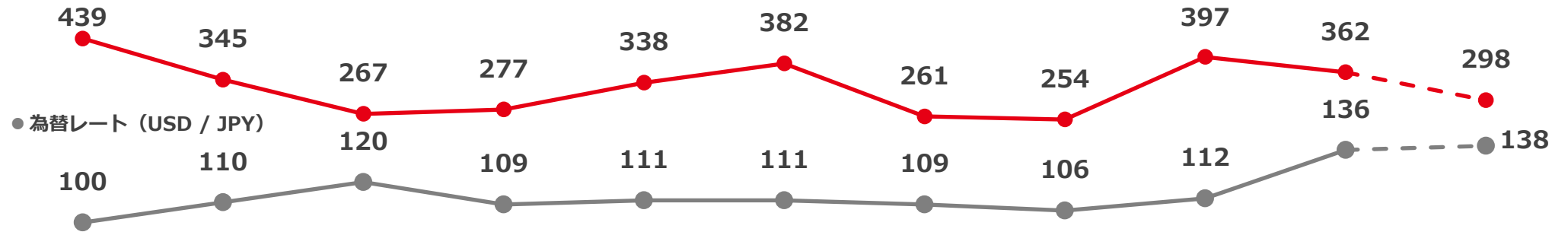


(単位：億円)

		2022/3	2023/3	増減
	営業キャッシュ・フロー	430	268	△161
	投資キャッシュ・フロー	△465	△441	+24
フリーキャッシュ・フロー		△35	△172	△137
財務キャッシュ・フロー		△55	200	+254
その他		61	28	△33
現金及び現金同等物の増減額		△29	55	+84
現金及び現金同等物の当期末残高		880	935	+55

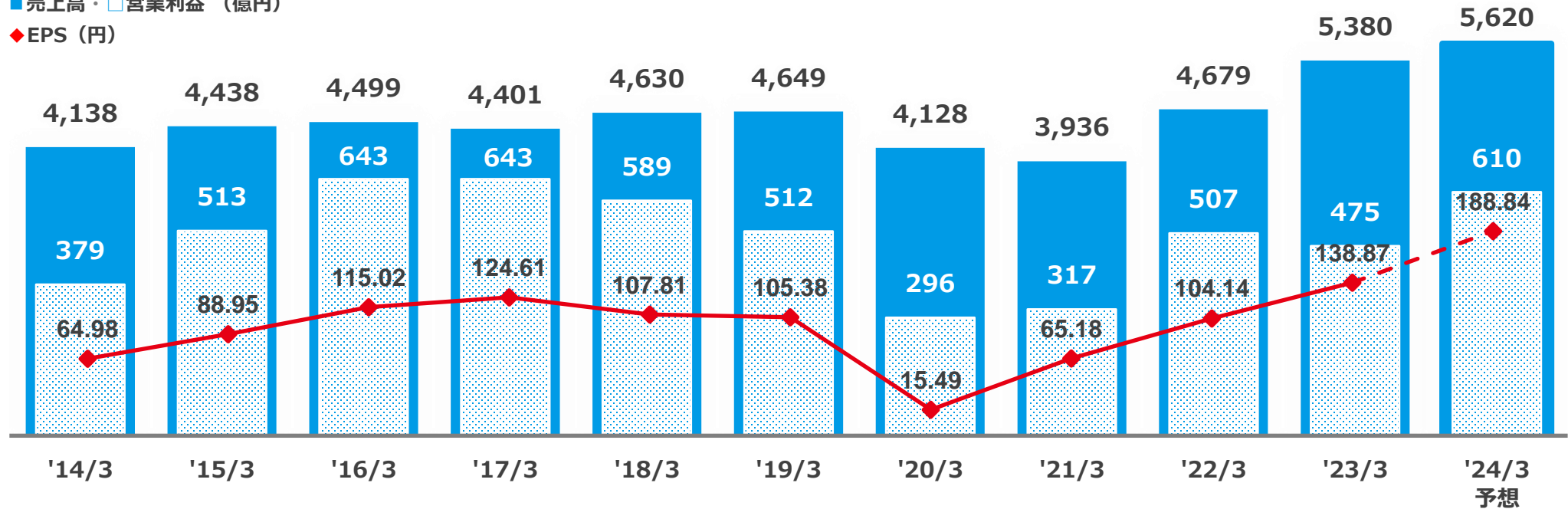
売上高・営業利益・EPSの推移

●メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)



■売上高・□営業利益 (億円)

◆EPS (円)

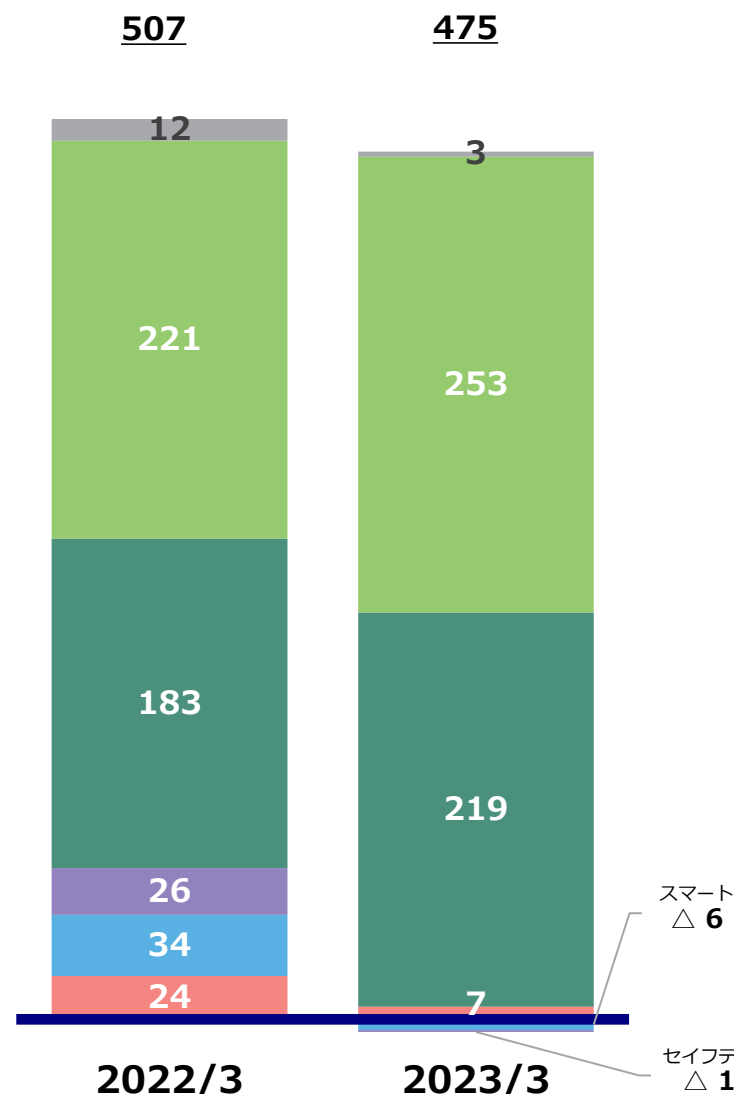
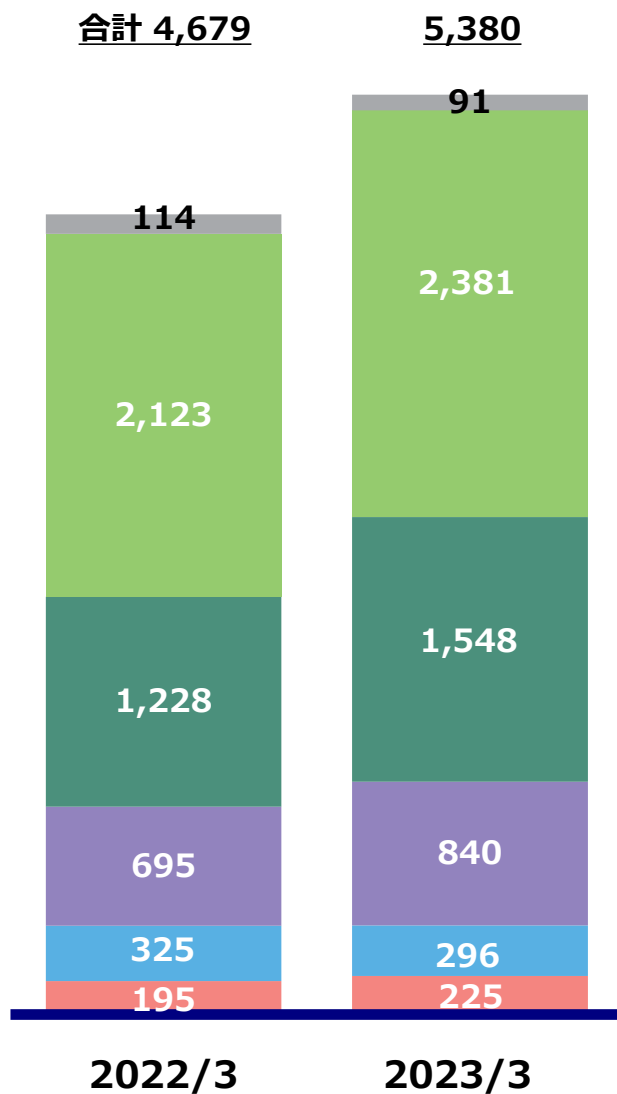


セグメント別の売上高・営業利益（23年3月期実績 前年比較）

売上高

営業利益

(単位：億円)



セグメント

- その他
- エンジニアリング
プラスチック
- マテリアル
- セーフティ
- スマート
- メディカル・ヘルスケア

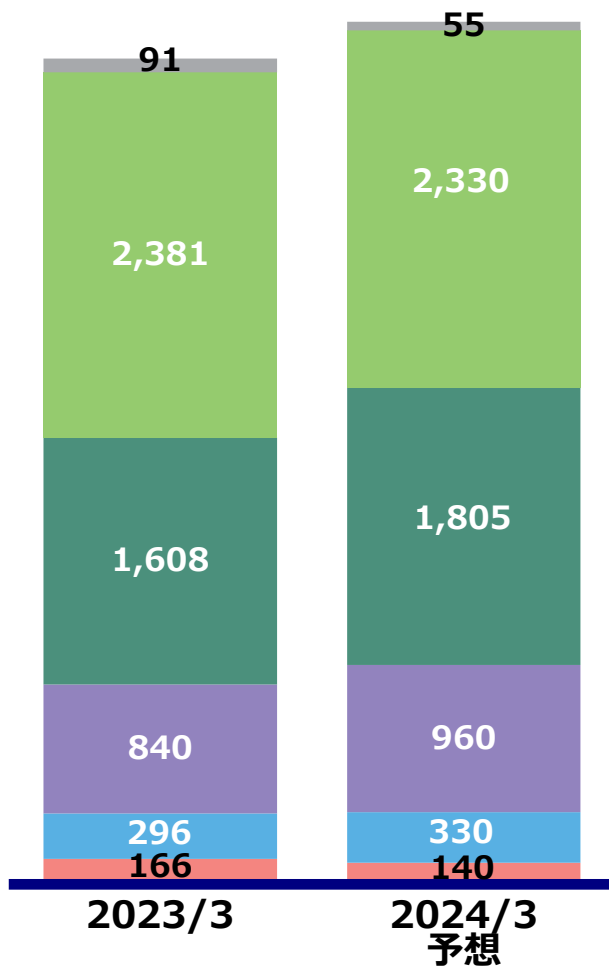
※2023/3 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映していません。

セグメント別の売上高・営業利益（24年3月期予想 前年比較）

売上高

合計 5,380

5,620

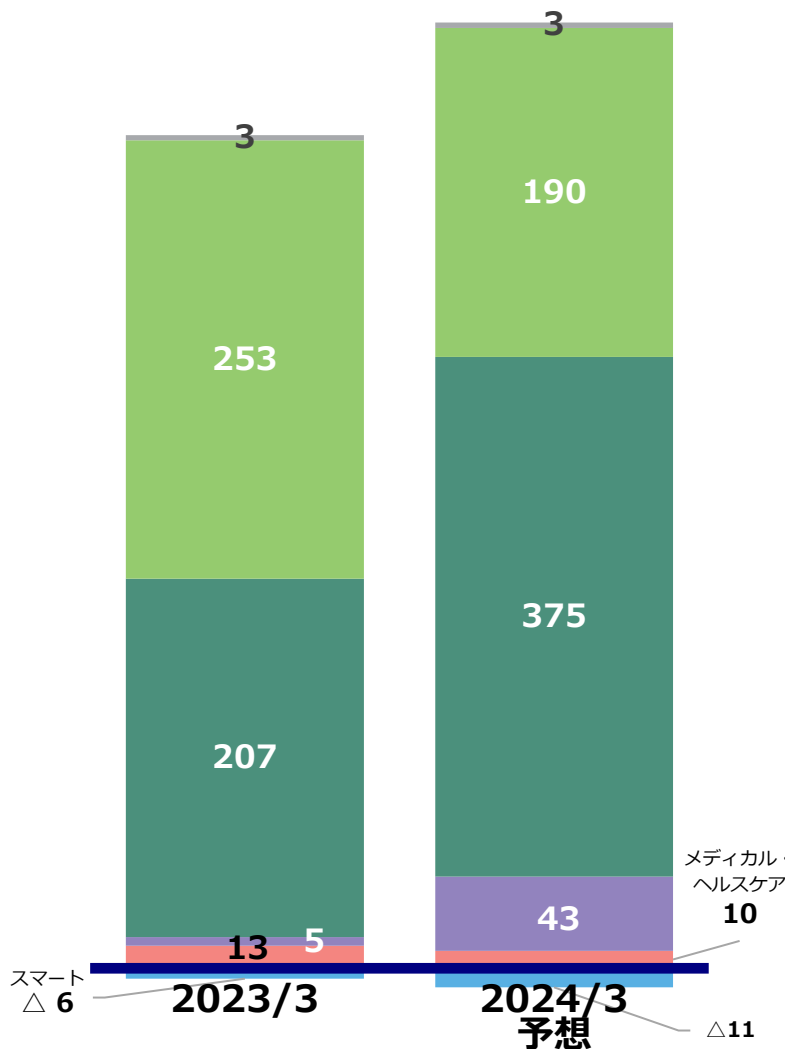


営業利益

(単位：億円)

475

610



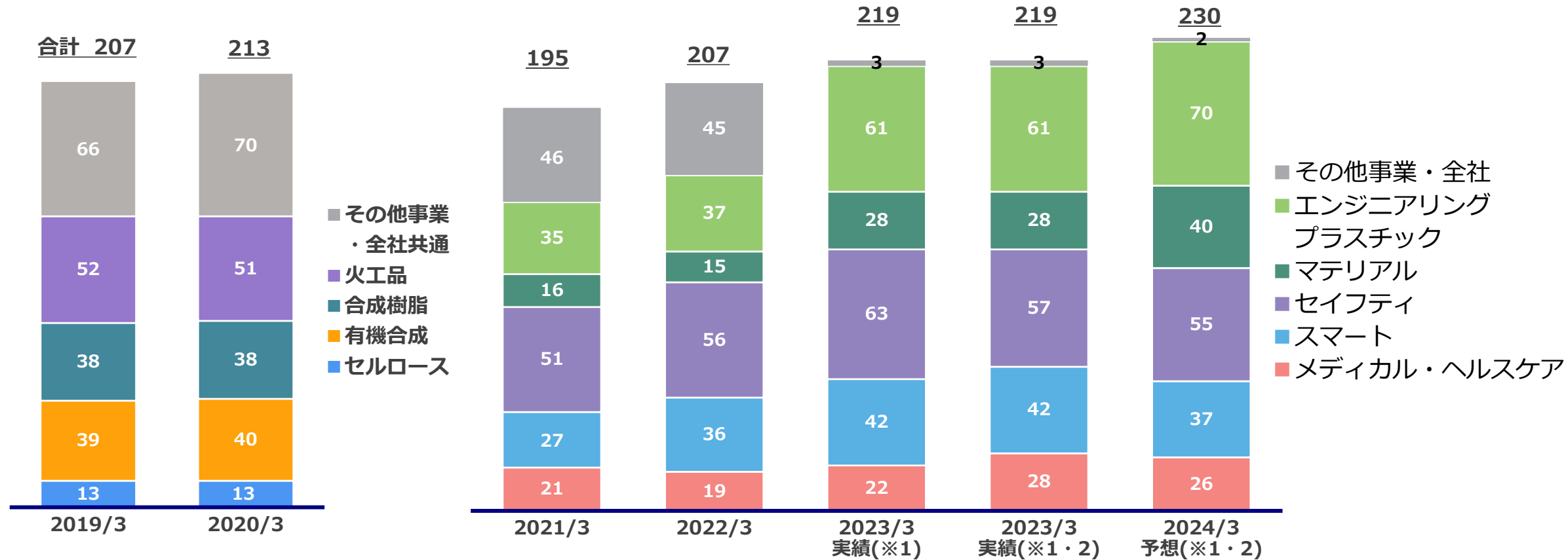
セグメント

- その他
- エンジニアリング
- プラスチック
- マテリアル
- セイフティ
- スマート
- メディカル・ヘルスケア

※2023/3 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

研究開発費の推移

(単位：億円)

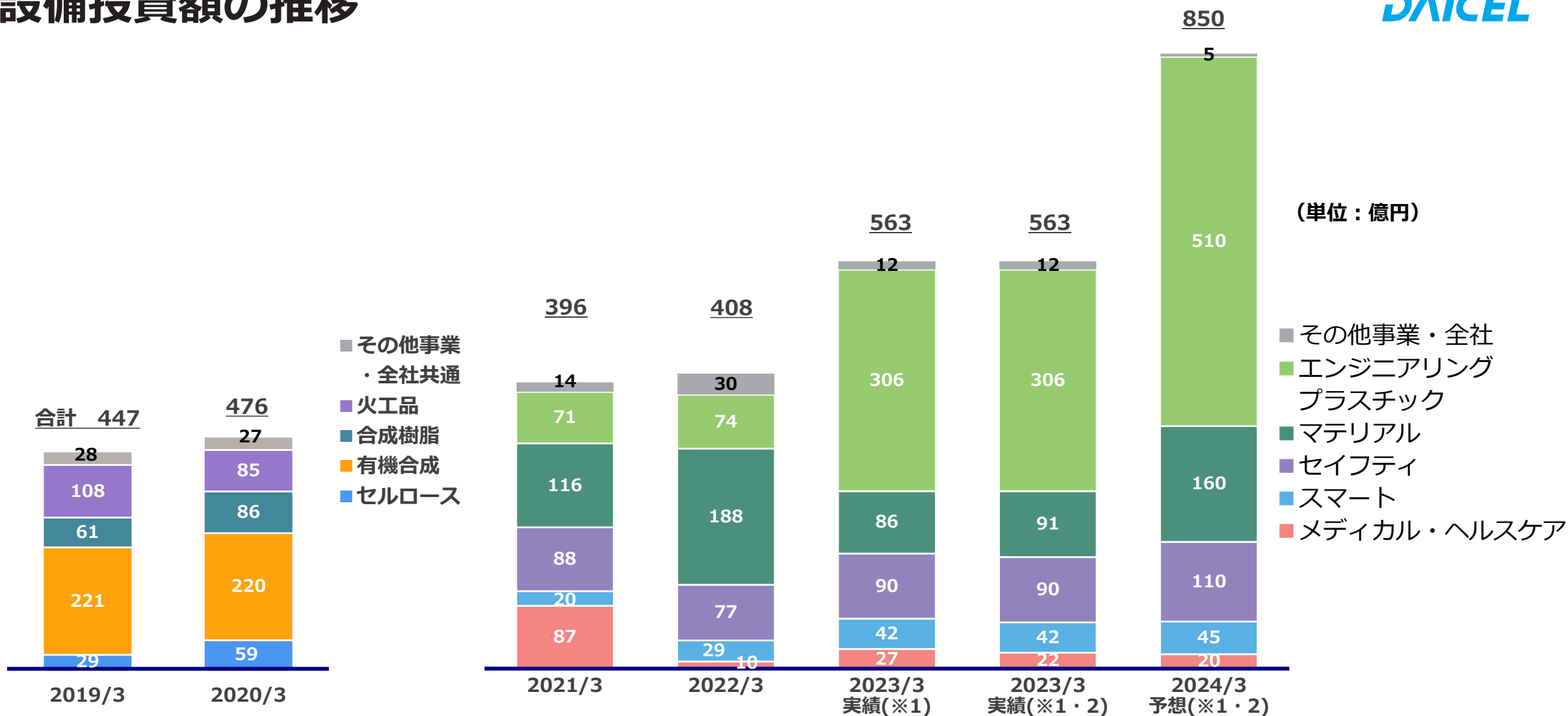


※2021/3よりセグメントを変更しております。

※1 見直し後の全社費用配賦方法を反映しており、「その他事業・全社」の数値は「その他事業」のみの数値です。

※2 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

設備投資額の推移

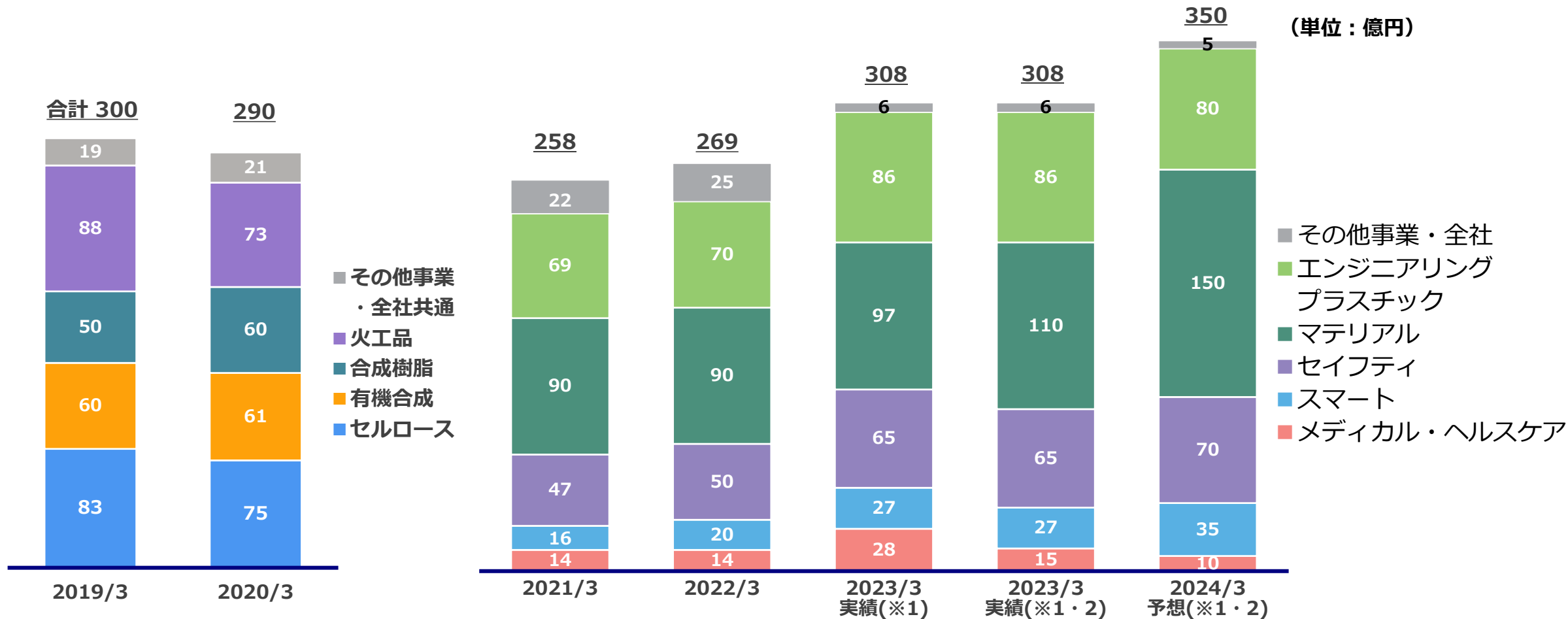


※2021/3よりセグメントを変更しております。

※1 2023/3より全社費用配賦方法の見直しによりその他事業のみの数字です。

※2 2023/3 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

減価償却費の推移



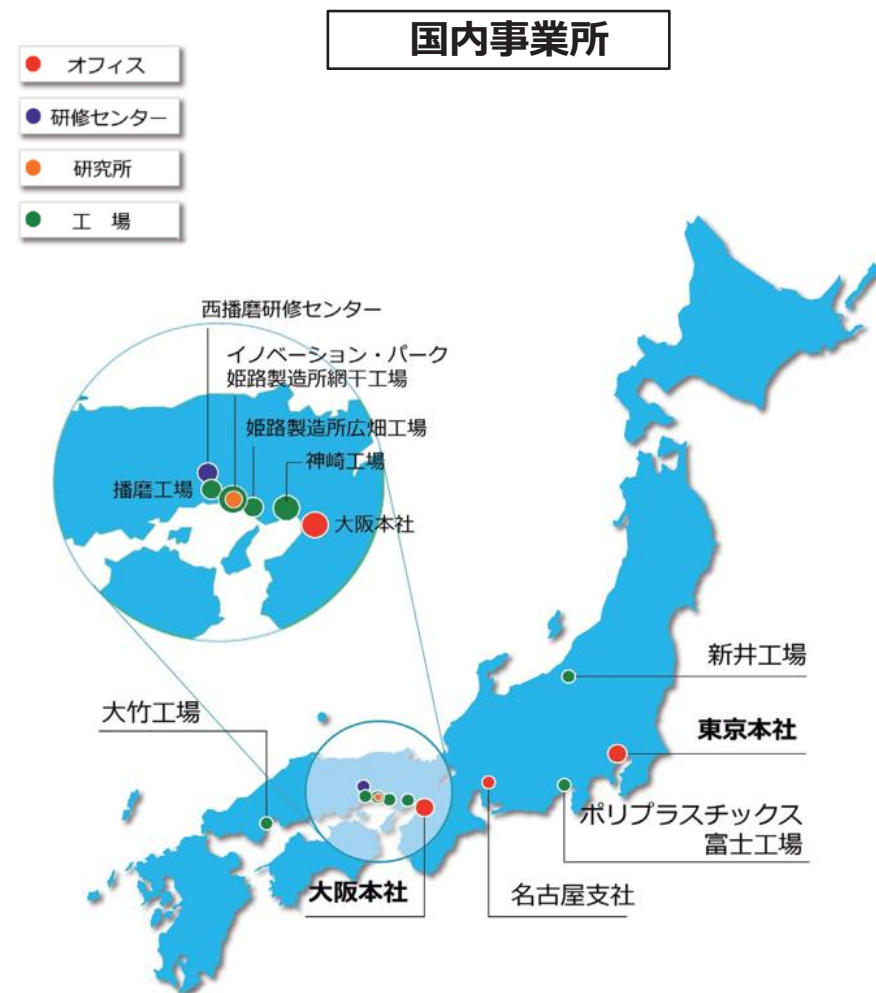
※2021/3よりセグメントを変更しております。

※1 2023/3より全社費用配賦方法の見直しにより其他事業のみの数字です。

※2 2023/3 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

会社概要

商号	株式会社ダイセル
英文商号	DAICEL CORPORATION
設立	1919年9月8日
資本金	362億円
従業員数	2,524名（ダイセルグループ 11,207名） ※2023年3月31日現在
本社所在地	大阪本社 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB 東京本社 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル
上場市場	東証 プライム市場
証券コード	4202（化学）
売買単位	100株



- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

- 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
- いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。